



# EXTRA, EXPERT AND EXTREME EXPRESS--

2007 VOL.  
**7**



## 中須賀克行がノックアウト方式の予選を制す! 清成龍一は3番手グリッドからスタート!!

Photo by H.Wakita&Y.Harada(c)



- 予選日: 天候/晴れ 路面/ドライ
- 決勝レース[1] コースイン/10:45 スタート/11:00(15周)
- 決勝レース[2] コースイン/14:00 スタート/14:15(15周)

開幕戦ツインリンクもてぎ以来となるノックアウト方式で公式予選が行われたJSB1000クラス。MFJグランプリは、ポイントを獲得したライダーのみエントリーできる、いわば選ばれた者のみが参加できるレース。公式予選には30台が出走し、予選1回目に1名だけが上位3名の平均タイムの107%をクリアできず予選落ちとなり、ノックアウト方式の予選2回目には29台が進出した。

第1セッションでは中須賀克行が早くも2分8秒396という好タイムをマークし、安田毅史、清成龍一が2分8秒台で続き、第2セッションに突入する。

第2セッションは、24台が出走し上位12番手までが第3セッションに進出できる。開始早々に安田が2分7秒788をマークし、コースレコードを更新し、このタイムが第2セッションのトップとなる。セッケン1をつける伊藤真一は、13番手につけていたが、セッション終了まで残り4分というところでタイムを更新し、9番手に浮上する。しかし、大崎、横江、亀谷など立て続けにタイムを更新し、伊藤は12番手に下がってしまう。ここで徳留和樹が最後のタイムアタックに入るが、最終コーナーであわや転倒というハイサイドを演じるシーンがモニターに写し出される。残り時間がなく、この周しかタイム計測されない状況となり万事休すかと思われたが、最後まであきらめない走りを見せ徳留が12番手にすべりこむ。これにより伊藤が0.029秒差という僅差で13番手に落ちノックアウトされてしまう。以下、柳川明、森脇尚護と続き、こちらも第3セッションへの進出を逃している。

そして第3セッションは12名のライダーが出走し、ポールポジションの座が争わ

れた。セッションが始まると同時にクオリファイタイヤを使った中須賀克行が自身も想定外という2分7秒412をマーク。このタイムを破る者は現れず、今シーズン初ポールポジションを獲得した。「鈴鹿8耐で記録した7秒7が出せれば(速さを)アピールできると思っていたし、セクター2で失敗していたので7秒4が出てビックリした。マシンのセットは事前テストで出していたので、ほとんど変更していない」と中須賀。

2番手には最後のアタックでセクター3まで中須賀を上回る速さを見せていた安田だった。「調子は悪くないですよ。おもしろいレースをしたいですね」と余裕の表情。一方、プリティッシュスーパーバイク(BSB)で2連覇を果たし、凱旋レースとなる清成龍一も2分7秒台をマークし3番手につけた。この上位3名がアベレージタイムも速く、レースは、この3人を中心に展開されることになりそうだ。

酒井大作が4番手、暫定ポイントリーダーの渡辺篤が5番手とヨシムラの2台、第2戦鈴鹿のウイナー亀谷長純が6番手で2列目に並び、秋吉耕佑が7番手、暫定ランキング2番手の山口辰也が8番手、徳留和樹が9番手と続いた。

タイトル争いでは、渡辺が山口に21ポイントという大差をつけており圧倒的に有利な状況だが、今回は2レース制であり、2連勝すれば最大56ポイントを獲得できる。それだけに、第1レースから目が離せない展開になるのは確実! レースの行方と共に、タイトル争いも要注目だ!!

[佐藤 寿宏]

### INFORMATION

#### 全日本ライアルトップランカーデモンストレーション



バイクを使った競技はロードレースだけじゃない!  
全日本ライアル選手権トップランカーたちによる妙技をお楽しみ下さい。

- 日時: 10/21(日) 10:30~11:00 15:00~15:30
- 場所: グランプリスクエア
- ※10/21(日)ピットウォーク時(12:00~12:40)に、国際レーシングコース上でのデモンストレーションも開催
- 出演: 黒山健一選手、三谷英明選手

### TIME TABLE

\*タイムテーブルは、変更されることがあります。

09:45 -	ST600 スタート進行(コースイン~選手紹介)
10:00 -	ST600 決勝レース ..... 12Laps
10:45 -	JSB1000 Race[1] スタート進行(コースイン~選手紹介)
11:00 -	JSB1000 Race[1] 決勝レース15Laps
12:00 - 12:40	ピットウォーク
13:00 -	GP125 スタート進行(コースイン~選手紹介)
13:15 -	GP125 決勝レース ..... 12Laps
14:00 -	JSB1000 Race[2] スタート進行(コースイン~選手紹介)
14:15 -	JSB1000 Race[2] 決勝レース15Laps
15:10 -	GP250 スタート進行(コースイン~選手紹介)
15:25 -	GP250 決勝レース ..... 12Laps
16:30 -	*レース終了後~サーキットクルージング(2輪体験走行)



2番グリッド / #73 安田 毅史 急募.com HARC-PRO.



3番グリッド / #72 清成 龍一 TEAM HRC

# JSB 1000

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

## POLE POSITION INTERVIEW



### POLE POSITION 中須賀 克行 2'07.412

「自分的には8耐で記録した2分7秒7を超えられればいいなと思っていた。そのタイムを超えようと頑張った結果、ここまでのタイムが出て自分でもびっくりしている。事前テストでかなりいい感触があり、アベレージも高かった。マシンのセットアップはほとんど変えず、レースウィークに入ってから自分の調子をつかむことだけに集中した。予選でも決勝のことを考え、予選だと意識しなかったのがいい結果につながったと思う。決勝は昨年同様、今年もかなりのハイペースが予想される。清成君は速いし、安田君も調子がいい。自分を入れたこの3台の争いになると思うが、後ろでタイヤを温存して、残り5ラップで勝負をかけたい」

## JSB1000 CLASS STARTING GRID

1	2'07.412 9 中須賀 克行 YSP&PRESTOLレーシング	2	2'07.446 73 安田 毅史 急募.com HARC-PRO.	3	2'07.982 72 清成 龍一 TEAM HRC
2	2'07.983 39 酒井 大作 ヨシムラススキwithJOMO	4	2'07.999 76 渡辺 篤 ヨシムラススキwithJOMO	5	2'08.239 10 亀谷 長純 Team 桜井ホンダ
3	2'08.407 4 秋吉 耕佑 WINs SUZUKI R.T.	6	2'08.666 3 山口 辰也 モリワキMOTULLレーシング	7	2'08.722 54 徳留 和樹 ホンダドリーム無限RT
4	2'08.902 75 大崎 誠之 SP忠男レーシングチーム	8	2'09.265 62 横江 竜司 RT仙台森くま&秘湯幾々温泉	9	2'09.419 7 辻村 猛 F.C.C.TSR
5	2'09.691 1 伊藤 真一 KEIHIN Kohara R.T.	10	2'09.794 87 柳川 明 TEAM GREEN	11	2'10.254 83 森脇 尚護 モリワキMOTULLレーシング
6	2'10.852 71 津田 一磨 Team桜井ホンダ	12	2'11.307 53 今野 由寛 Deotex PANTHERA	12	2'11.716 30 波多野 祐樹 Moto Map SUPPLY
7	2'12.285 23 本田 晃司 マルマエサブライウッドストック	13	2'12.610 25 鈴木 慎吾 MOTO WIN RACING	13	2'12.900 21 野寄 真二 ホンダ英友会浜松エスカルゴ
8	2'13.255 31 東村 伊佐三 BEET LUMIX Racing	14	2'13.291 6 奥田 貴哉 チームOSG&モトスポーツ	14	2'14.784 85 古川 力也 ホンダ英友会浜松エスカルゴ
9	2'14.200 17 山中 正之 Tele'ウルヴァマンヨシバルMCR	15	2'14.598 52 民辻 啓 ヤッパ〜&レーシングサブライ	15	2'14.784 85 古川 力也 ホンダ英友会浜松エスカルゴ
10	2'15.406 24 荻田 庄平 RS-ITOH&KAZE	16	2'17.455 38 原田 洋孝 R.S.ガレージハラダ姫路	16	2'17.455 38 原田 洋孝 R.S.ガレージハラダ姫路

## 全日本ロードレース選手権 GP125 youth CUP に注目!

今シーズンはGP125クラスに「GP125 youth CUP」が設けられた。12歳から17歳以下のライダーを対象とした若手育成プログラムで、登録しているライダーは、下記の8名。成績優秀者はスペインで開催される「MotoGP アカデミー \*1」のオーディションに推薦される。

これまで3勝の富沢祥也が断トツの強さを見せてyouth CUPのランクトップを決めている。決勝レース終了後には、youth CUPのランキング表彰も行われる予定。シーズン最後の彼らの走り注目してほしい。

\*1[MotoGP アカデミー]は、ドルナ社が運営する若手ライダー育成プログラム。

ゼッケン	ライダー名	生年月日	チーム
48	富沢 祥也 トミザワ ショウヤ	1990年12月10日	FRS
50	尾野 郡司*オノ ゲンジ	1991年8月5日	BATTLE & MIHARA RACING
55	渡辺 一馬 ワタナベ カズマ	1990年5月6日	DyDo MiU Racing Team
68	篠崎 佐助 シノザキ サスケ	1993年6月20日	ENDURANCE
71	矢作 雄馬 ヤハギ ユウマ	1990年7月26日	ENDURANCE
72	和田 卓也 ワダ タクヤ	1991年5月19日	チームKOHSAKA
73	山本 剛大*ヤマモト タケヒロ	1993年2月26日	CLUB HARC-PRO.
76	尾野 弘樹 オノ ヒロキ	1992年7月15日	BATTLE & MIHARA RACING

\*印の2名は、今回出場していません。



【前列】左から、矢作 雄馬、篠崎 佐助、山本 剛大、和田 卓也  
【後列】左から、尾野 弘樹、富沢 祥也、渡辺 一馬、尾野 郡司

# 小西良輝が2度目の全日本タイトルに一直線!

熾烈なタイトル争いが展開されているST600クラス。開幕戦で転倒リタイヤを喫していた小西良輝が第3戦以降、ジリジリと追い上げ、第5戦SUGO、第6戦岡山と連勝を飾ると一気にポイントリーダに躍り出た。1ポイント差で高橋英倫、5ポイント差で佐藤裕児、15ポイント差で野田弘樹、21ポイント差で武田雄一と続いており、ここまでがタイトル獲得の可能性はある。しかし、事実上、上位3名の誰かが王座に着くことになるだろう。

中でも小西は絶好調だ。事前テストから2分16秒台をマークしており、予選も終止セッションをリード、ただ一人、2分15秒台をたたき出し、4戦連続ポールポジションを獲得している。

「簡単にタイムを出したわけではないけれどベストタイムをマークした周は4台に引っかかったし、それが必要なら14秒台に入っていたはず。13秒台は見えていたと思うけれど、タイムを出さなければ言い訳になっちゃうよね。タイトルにはこだわらず一つのレースを勝ちにいくことだけを考えるとホームコースで自信満々の小西。高橋が4番手、佐藤が7番手と続いているが、タイム差もあるだけに前戦に続き小西がトップを独走する可能性が高い。高橋と佐藤にとっては、スタートを決め小西を逃がさないようにしたいところだ。

フロントロウには小西を筆頭に、武田雄一、野田弘樹が続き、ホンダユーザーが独占した。野田にとっても鈴鹿はホームコース。前戦でも2位に入っているだけに今回も表彰台は十分射程圏内だと言える。セカンドロウに並ぶ寺本幸司、生形秀之という2台のスズキユーザーにも注目だ。

[佐藤 寿宏]



**POLE POSITION** 小西 良輝 2'15.668

「周りのタイム差からしたら調子がよさそうに見えるかもしれないけど、去年のコースレコードを超えられず、ニュータイヤでもこんなもなかった。鈴鹿は得意なコースというのもあるけど、マシンもまともってきていて、今回はJSBでもすごいタイムが出てるし、条件が合えば2分13秒台も出せるかなという自信があった。結局タイムは出せなかったけど、とりあえずポールが取れてよかった」

## ST600

## 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	73	小西 良輝	2'15.668	急募.com HARC-PRO.
2	88	武田 雄一	2'16.235	Team 桜井ホンダ
3	12	野田 弘樹	2'16.422	レーシングチーム ハニービー
4	8	高橋 英倫	2'16.865	TEAM GREEN
5	5	寺本 幸司	2'17.021	Moto Map VEGA
6	43	生形 秀之	2'17.202	エスバルストリームレーシング
7	10	佐藤 裕児	2'17.619	ジュビロレーシングチーム
8	9	須貝 義行	2'17.641	チームスガイ
9	11	森 新	2'17.829	急募.com HARC-PRO.
10	20	岩田 悟	2'17.834	F.C.C.TSR
11	58	大木 崇行	2'17.870	club HARC-PRO.
12	29	津田 拓也	2'17.891	チームOSG&モトスポーツ
13	705	黒川 武彦	2'17.922	松本クリニック中村Egスピード
14	15	福垣 誠	2'17.994	バーニングブラッドRT
15	27	中山 真太郎	2'18.032	Kohara RC
16	72	宮崎 敦	2'18.043	DOG FIGHT RACING
17	55	高橋 江紀	2'18.050	DyDo MiU Racing
18	51	泉本 真宏	2'18.288	RT仙台森くま&秘湯義々温泉
19	16	大石 正彦	2'18.304	伊藤RACING-GMDスカ
20	19	鶴田 竜二	2'18.400	TRICK STAR TAMITON-R
21	25	東浦 正周	2'18.517	プラズムレーシングチーム
22	69	小林 龍太	2'19.105	バーニングブラッドRT
23	44	児玉 勇太	2'19.311	DDBOYS Racing
24	17	新垣 敏之	2'19.705	ARA 虎の穴 Bikers
25	37	行方 知基	2'19.719	ヨシムラスズキwithJOMO
26	62	中津原 尚宏	2'19.747	研友会鈴木PGレーシング
27	96	光元 康次郎	2'19.852	南海部品広島&ウッドストック
28	48	戸田 義弘	2'20.053	Wins ルートカーゴ RT
29	89	須磨 貞仁	2'21.617	ホンダドリム北九州RT

以上 予選通過:

予選通過基準タイム (110%) 2'29.234

# 仲城英幸が今季初P.P.をゲット!クラス最年少の日浦大治朗が2番手!

朝8:35から40分間で争われたGP125クラスの公式予選は、前日の雨の影響で、予選の後半にかけて急速に路面が乾く難しいコンディションだった。残り15分を切ったところで、仲城英幸が唯一2分25秒台に突入。その直後に和田卓也が2分25秒619でトップを奪うが、仲城は周回ごとにタイムを更新し、2分24秒台に入ってくる。富沢祥也も2番手に浮上した。

残り約1分となった時、クラス最年少13歳の日浦大治朗が2分24秒103を叩き出し、一気にトップに躍り出る。しかし、チェッカーが振られた後にコントロールラインを通過した仲城のラストアタックは2分23秒402。SRS-J(鈴鹿サーキットレーシングスクール)の教え子である日浦に、講師の威厳を示すポールポジションを獲得した。日浦は2番手グリッドから初優勝に挑戦する。

下位に沈んでいた菊池寛幸は、チェッカーを受けた周に一旦は4番手まで浮上するも、古市右京、富沢、天野邦博、浪平伊織、山本武宏らがラストアタックで続々とタイムを更新。結局、菊池は13番手、5列目から決勝に挑むこととなった。

現在82ポイントを保持し、ランキングトップに立っている岩田裕臣は、まさかの23番手。一方、15ポイント差で岩田を追う徳留真紀も16番手に沈んでおり、逆転チャンピオンへの道は険しいが、スタートでジャンプアップできればチャンスは大いにある。

予選ではレインタイヤからスリックへの交換、クリアラップのタイミングによりグリッドの明暗が分かれたようだ。金曜・土曜はコンディションが安定しなかったが、天候に恵まれそうな決勝レースは混戦になることが必至だ。また、今シーズン限りで引退を表明している山本は3番グリッドからのスタート。これがラストランとなるレースで表彰台の真ん中を狙っている。

[藤根 ゆかり]



2番グリッド/ #46 日浦 大治朗 Team NOBBY



ポールポジション/ #10 仲城 英幸 TEAM ASPIRATION

**POLE POSITION** 仲城 英幸 2'23.402

「ポールポジションは去年の開幕以来なのうれしい。今シーズンはチームを移籍し、いちからのスタートだった。エンジンも変わったが、SUGOあたりから手応えがあったので、そこからどんどん詰めていってよくなってきた。金曜は雨でトラブルも出たが、予選は開き直って走ったら結果がよかった。決勝での作戦は考えてないけど、決勝周回数が12周と短いので1周目からガンガン攻めていきたい。今年は表彰台に立っていないので、精一杯全力で走れたらいいなと思う」

## GP125

## 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	10	仲城 英幸	2'23.402	TEAM ASPIRATION
2	46	日浦 大治朗	2'23.420	Team NOBBY
3	8	山本 武宏	2'23.774	チームMARINEコスモス+G
4	25	古市 右京	2'23.790	TEAM ASPIRATION
5	15	浪平 伊織	2'24.176	Honda鈴鹿レーシングチーム
6	5	井手 敏男	2'24.277	Feel&TEC.2
7	48	富沢 祥也	2'24.450	TeamProjectuFRS
8	27	天野 邦博	2'24.666	ホンダ狭山レーシングチーム
9	13	山田 亮太	2'24.672	TEAM PLUS ONE
10	55	渡辺 一馬	2'24.712	DyDo MiU Racing
11	14	東 幸寛	2'24.807	RISKY+ホワイトレーシング
12	61	柳沢 祐一	2'24.907	18 GARAGE RACING TEAM
13	4	菊池 寛幸	2'24.952	BATTLE&ミハラレーシング
14	18	國吉 基寛	2'25.070	SMFレーシング MKN
15	72	和田 卓也	2'25.110	チームKOHSAKA
16	11	徳留 真紀	2'25.509	TEC.2&Feel
17	7	井上 誠	2'25.825	BATTLE&ミハラレーシング
18	68	篠崎 佐助	2'25.952	ENDURANCE&福川塾
19	76	尾野 弘樹	2'26.305	BATTLE&ミハラレーシング
20	99	ラタホウワイトロー	2'26.640	Thai A.P.Honda with HARC-PRO
21	24	水野 那由太	2'26.963	TEC.2&Feel
22	3	竹内 吉弘	2'27.483	RP馬行&YUE&Promathic-I
23	6	岩田 裕臣	2'27.680	TEAM PLUS ONE
24	23	中村 貴紀	2'28.023	Team Life
25	71	矢作 雄馬	2'28.328	福川塾&ENDURANCE
26	21	長谷川 穂	2'28.797	RISKY+ホワイトレーシング

以上 予選通過車両:

予選通過基準タイム (110%) 2'37.742

# 勝ってチャンピオンを決めたい宇井陽一、意地を見せたい高橋巧

公式予選は宇井陽一と高橋巧の二人がコースレコードを更新するハイレベルな戦いとなった。二人ともセッションが進むにつれタイムを削っていき、2分11秒台に突入。高橋が昨年、横江竜司が記録した2分11秒894を破る2分11秒691をマークしポールポジションを獲得した。「コースレコードを狙っていたので(レコードタイムを)出したのはよかったけれど、最後にミスしてしまいタイムを更新できなかったのが残念だった。テストからセットが進んでいるので決勝もいいペースで走りたい」と高橋。

一方、宇井もテストから順調にセットアップを煮詰めてきており、予選中は決勝に向けたタイヤの確認を行っていたという。「路面の状態もよくグリップしたし、ベストタイムを出したのはレースタイヤだった。前はタイヤチョイスを外してしまったけれど今回は大丈夫。勝ってチャンピオンを決めたいね」と自信をのぞかせている。

高橋と宇井が予選3番手の濱本裕基を3秒以上も引き離しており、決勝も高橋と宇井の一騎打ちとなるのが予想される。ポイントランキングでは、宇井が高橋に14.5ポイント差をつけており、高橋が勝っても宇井は10位以内に入ればチャンピオン獲得となる。勝ってチャンピオンを決めたい宇井か? 意地を見せたい高橋が2連勝を飾るか? 二人の戦いが、今シーズンを締めくく르는ことは間違いない。

また、GP125クラスとダブルエントリーしている富沢祥也は、セッション開始早々にマシントラブルが発生したため予選を走ることができず、嘆願書を提出し、最後尾からスタートする。

[佐藤 寿宏]



## POLE POSITION 高橋 巧 2'11.691

「事前テストからセッティングが出せたので、テストの状態から変えていない。2分11秒前半くらいで走っていたので、予選では最初からコースレコード更新するつもりで走っていました。最後のアタックでミスしちゃったのが残念。あれがなければ2分11秒前半は出せたと思う。予選用タイヤでのタイムだったので、決勝でこれ以上のタイムは出ないと思うけど、11秒台には入れたい。最終戦でポールポジションを取ることができてよかったです」

## GP250

## 予選結果

Pos	No.	Name	Time	Team
1	4	高橋 巧	R 2'11.691	バーニングブラッドRT
2	41	宇井 陽一	2'11.868	MALOSSI/spruce&PT
3	7	濱本 裕基	2'15.254	TEC2&Feel 九州共立大学
4	5	及川 誠人	2'15.335	ウィルアクセス&プラスミュー
5	56	山崎 郡	2'15.714	HITMAN RC甲子園ヤマハ
6	6	秋谷 守	2'16.117	チーム モトスペース
7	8	秋田 貴志	2'16.204	Henkel TDR YAMAHA
8	92	國川 浩道	2'16.441	SP忠男レーシングチーム
9	93	遠藤 卓実	2'17.036	PRO-TEC&新潟工業短大
10	31	渡辺 一樹	2'17.075	TDR
11	16	櫻井 大幸	2'17.312	KEIHIN Kohara R.T.
12	19	伊藤 勇樹	2'17.805	DOG FIGHT RACING
13	62	中本 郡	2'17.871	RT-OUTRUN
14	14	及川 玲	2'18.182	ペンタグラム&(株)横岡&M-Ra
15	26	柴原 誠	2'19.052	Team Danke Racing
16	25	福山 京太	2'19.311	Team Danke Racing
17	47	小口 亘	2'20.351	ALLMAN&OWRACING
18	65	二瓶 彰	2'20.352	SP-秀&寿レーシング
19	15	豊田 浩史	2'20.675	D;REX
20	34	小口 理	2'20.782	ALLMAN&OW小口歯科
以上 予選通過:				
21	48	富沢 祥也	38'49.601	TeamProjectuFRS

Rマークの車は、コースレコードを更新しました。  
従来のコースレコードは 2'11.894  
予選通過基準タイム (110%) 2'24.860

# 中木亮輔が今季3勝目! 森隆嘉(国際)・阿部徹郎(国内)が新チャンピオンに!

変則的なスケジュールが組まれているこの鈴鹿MFJグランプリは、GP-MONOクラスの公式予選、決勝とも土曜日に開催された。8時からの予選は前日の雨でウェットコンディションの中、ポールポジションを獲得したのは小室旭。中木亮輔、乃村康友がフロントロウに並び、ポイントリーダーの森隆嘉は2列目、6番手からのスタートとなった。

西日が差し始めた午後3時30分頃、決勝がスタート。ホールショットは小室が奪うが、オープニングラップはデグナーカーブで小室をかわした乃村がコントロールラインをトップで通過。

レース序盤は乃村、小室、中木、森、山下祐の5台がトップグループを形成していたが、中盤に入る頃、中木を先頭に乃村、小室の3台が抜け出す。更には周回ごとにファステストラップを更新していた中木がレース終盤、トップ独走状態に。ファイナルラップにはコースレコードを2秒以上も縮める2分23秒888という驚異のタイムを叩き出し、今季3勝目を挙げた。乃村、小室で激しく争われていた2位争いは、最後の最後で乃村に軍配が上がり、0.023秒差で小室が3位。

山下と4位を争っていた森は僅差の5位でチェッカーを受け、GP-MONOクラス2代目チャンピオンの座に輝いた。また、14位でフィニッシュした阿部徹郎が国内ライセンスのタイトルを手にした。

[藤根 ゆかり]



## WINNER 中木 亮輔(写真左から2人目)

「事前テストをドライコンディションで走ることができ、バイクのセットアップがだいたい決まっていたので、コースレコード1秒から2秒は更新できる自信があった。決勝は晴れば勝てると思っていたし、レースの展開も序盤は予想通りだったが、まさか逃げることもできる。今の環境では今シーズンはこれが 僕の100%の結果。来シーズンはGP-MONOに乗るつもりはない。元々スーパーバイクに乗っていて、いつかはJSBか600に参戦したいと思っていたので、その道を模索したい!」

## CHAMPION 森 隆嘉(国際ライセンス)

「なさないレース結果だったが、自分のためにたくさんの人が関わっているの、自分の仕事は5位以内に入ること。チャンピオンを取るために、やれることは全てやろうという強い気持ちがあった。今は「皆さんありがとう」と言いたい」

## CHAMPION 阿部 徹郎(国内ライセンス)

「特にタイトルは意識していなかった。今シーズンのGP-MONOは飛躍的にレベルが上がっているし、自分がトップ争いにはできないと思っていた。10年前に国内ライセンスに降格しているので、チャンピオンは狙えない状況だと思った」

## GP-MONO

## 決勝結果

Pos	No.	Name	Lap	Time	Team
1	42	中木 亮輔	10	24'15.187	MIRACLE POWER R
2	83	乃村 康友	10	24'18.919	モリワキクラブ
3	56	小室 旭	10	24'18.942	TeamProjectuFRS
4	1	山下 祐	10	24'33.025	ZBコスビツR・PLUSONE
5	2	森 隆嘉	10	24'33.252	TEAM PLUS ONE
6	7	藤崎直之	10	24'50.576	チームスガヤ・PILOTA
7	47	矢野 大輔	10	24'54.769	チーム リトルウイング
8	33	安村 武志	10	24'54.853	チーム テック・2
9	46	星野 知也	10	24'56.481	エスバルスドリムレーンジャー
10	3	岡田 義治	10	24'57.322	MRFプロマチックアイK&LJ
11	73	山本 晃大	10	24'57.508	CLUB HARC-RPO.
12	51	伊藤 公一	10	24'57.584	TEAM SEJ FORS
13	30	三好 菜摘	10	25'12.392	パワーハイブ+MRF
14	9	阿部 徹郎	10	25'12.597	あべスビ・ヤマハ&セルコホーム
15	52	小畑 仁	10	25'12.906	MOTO WIN RACING
16	15	永田 正己	10	25'13.094	TW's&RAVE-ON+ZB
17	49	楠元 晃一	10	25'14.117	Garage130R&FUSE
18	43	山田 俊樹	10	25'18.425	バーニングブラッドRT
19	88	植田 智広	10	25'18.930	Team Life
20	34	山口 慶高	10	25'25.672	TEAM MIKUNI GPmono
21	4	赤間 清	10	25'30.654	CLUB HARC-PRO.
22	41	谷川 壮洋	10	25'36.560	TEAM PLUS ONE
23	32	伊東 忠孝	10	25'37.475	青空racingライムスポーツ
24	20	江崎 隆 学	10	25'39.784	IS-P.CC/ブリミティブR
25	31	小川 範祥	10	25'40.672	広島カジタレーシング
26	5	吉川 真一	10	25'58.954	チームライディンクススポーツ
27	12	繁野 明治	10	26'02.572	ホットバンクUSA&GET HOT
28	10	平石 理	8	25'59.566	レーシングチーム ハニービー
以下 フィニッシュライン不通過:					
29	74	岳 栄一	8	22'03.061	Teamイシ&アイテック
以上 規定周回数未達:					
68	中村 公彦	出走せず			IS-P.CC/ブリミティブR

## Fastest Lap

#42 中木 亮輔 MIRACLE POWER R 2'23.888 10/10 145.64km/h  
※コースレコード更新(従来のコースレコードは 2'26.273)

## 規定周回数 7